

取組名称	漆がつなぐ教育・福祉・文化のプロジェクト			団体設立後の経過年数	1年
応募取組主体名称	ReNeW津軽	活動地域	青森県弘前市	応募取組の活動年数	1年目
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する 実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

津軽地方では皆伐後の再生林が進まず、放置山林が拡大。保水力低下や土砂流出、獣害の増加など地域環境への影響が深刻化しています。一方、津軽塗の主原料である漆は文化庁の通達を契機に需要が急増するも、生産が追いつかず供給不足に陥っています。本事業は、障害者就労支援B型事業所が生産する漆苗木を活用し、学生と共に植栽を行うことで、森林再生と伝統文化の継承を両立。福祉・教育・環境・文化を横断する地域共生型モデルとして、多世代・多主体の参加による持続可能な地域づくりを目指しています。

実績の要旨

2025年4月、弘前大学、五所川原農林高校、柏木農業高校による高大連携STEAM教育プログラムの取組みとして、ウルシ苗木の生産を通じた実践的な学びを展開。学生たちは脱穀・塩水選・発芽処理、播種といった工程に取り組み、障害者と協働しながら福祉や伝統文化の意義を体感。また、同年5月には津軽地方の放置山林2ヵ所にて、障害者就労支援事業所「きりんの里」が生産した苗木を約50aの林地に植樹。これらの活動を通じ、環境・福祉・教育・文化を横断する新たな地域共生モデルを具体化した。

取組評価の要旨	環境への貢献	皆伐後の放置山林に漆を植栽し、森林の再生と生態系保全、水源涵養、獣害問題の軽減に貢献している。
	社会・経済への貢献	障害者の就労機会の創出、また、地域伝統産業と連携して経済循環を生み出している。
	地域資源の活用	漆や津軽塗など地域固有の資源を活かし、林業・福祉・教育を結びつけている。
	普及・汎用性	福祉・教育・林業の連携モデルは他地域でも展開可能で、全国的な応用性がある。
	革新・ユニーク性	漆を軸に福祉・教育・伝統文化を融合した全国初の共創型森林再生モデルである。
	継続性	育苗から管理・活用まで一貫した体制が整い、多世代・多主体の連携により継続可能である。